

瀋陽駐在員事務所

「共享单车」(シェア自転車)

4月頃から瀋陽市の街頭でも緑色のレンタル自転車で走行する人や停車中の自転車を頻繁に見かけます。最近、中国の都市部ではスマホアプリと決済システム、GPSを結合したシェア自転車が爆発的に広がっています。昨年末の利用者は全国で1,890万人でしたが、今年は3倍に急増すると予想されています。



(地下鉄駅に停められた「酷騎」の自転車)

現在の「共享单车」(シェア自転車)は専用駐輪所が不要で、利用者はスマホで最寄りの自転車(GPS搭載)を検索し、QRコードで解錠(各自転車の鍵部分にSIMカード内蔵)して使用、任意の場所で乗捨てでもできるなど、以前のサービスとは便利さが全く異なります。ユーザー登録には携帯電話番号と身分証(外国人はパスポート)、支付宝(アリペイ)などのスマホ決済システムが必要ですが、手続は全てスマホ上で簡単に終了します。各自転車にGPSが搭載されているので、スマホ画面に表示された地図上で周辺の空き自転車を探ことができ、走行距離や走行時間、決済金額なども確認することができます。利用料金は各社(全国約27社)で異なりますが、瀋陽でも普及している代表的なサービス「酷騎」は、デポジット298元(約5,000円)、利用料0.3元(約5円)/30分間です。

普及の背景にはIT技術の発展、スマホとモバイル決済機能の浸透のほか、国の政策として2015年に「インターネットプラス計画」(ネット産業と他業種の結合、高度化)が打ち出され、交通輸送における低炭素化の推進策として公共交通機関の優先や自転車利用が奨励されたことも後押しになっていると思います。

張 璐

ユジノサハリンスク駐在員事務所

【ロシア人の気質】

当事務所のすぐ近く、コムソモリスカヤ通りでは約600メートルにわたり道路工事が行われています。4月21日から7月21日まで通行止めとなるため、多くの自動車は裏道を走ることになり、市内バスのルートは変更になりました。



このような生活のメイン道路を全車両通行止めにして行う工事は3ヶ月も続きます。ユジノサハリンスク市役所によると、水道、電線、暖房、歩道、緑地などを改善し、車線を拡張する計画だそうです。ほぼ全てのインフラ整備が必要となるので、大規模な工事となっています。

長い期間、都市の中心部で道路が利用できないのは、日本人にとっては考えられないかもしれませんが、ロシア人にとっては「まあまあ、ありうること。理由もあるし。」と考える人が多いです。社会主義時代が長く、ロシア人は何事も受け入れて待つ民族。冬の厳しい寒さ、自然災害など、そのまま受け入れてすごして来ました。「急いでも仕方ない」「なるようにしかならない」と考える傾向にあり、どっしりと構えるのがロシア人です。同じ農機民族である日本人とはかなり違ってきます。

シュートフ・アレクサンドル

ウラジオストク駐在員事務所

ウラジオストク港に外国客船のシーズンが到来

2017年5月2日、客船コスタ ビクトリア(Costa Victoria)の入港を幕開けに、ウラジオストク港に外国客船のシーズンが到来しました。本客船は、日本、韓国、ウラジオストク港を結びつけるものであり、約2000人の韓国人旅行者が乗船していました。

近年、海外諸国からウラジオストク港に入港する客船は増加しており、これは、ウラジオストクがアジア太平洋地域における主要都市のひとつとして認識されていると言えます。今年、ウラジオストク港には海外客船の入港が13回予定されており、既に入港したコスタ ビクトリア(Costa Victoria)以外にも、日本からの客船として、コスタ ネオロマンチカ(Costa NeoRomantica) (5月30日)、日本丸(6月7日)、ぱしふいっくびいなす(9月10-11日)が入港予定となっています。

また、寄港の際に、日本人旅行者は、鷲の展望台、S-56潜水艦博物館、中央広場、オペラ・バレエ劇場、シベリア鉄道等、ウラジオストクを代表する観光地の訪問を予定しているとのこと。これらの客船は、日本とウラジオストクをはじめとする極東ロシアを結びつけるひとつの架け橋であり、今後ますますの増加が期待されます。



ウラジオストク港に寄港する
コスタ ビクトリア

ユルキナ・ヴィオレッタ

北陸銀行バンコク駐在員事務所

タイのフィンテック最前線

今回はタイのフィンテック(IT技術を使った新たな金融サービス)の最前線をお届けします。タイでは、国民一人一人に付与されるマイナンバーの活用策として、銀行口座と連動し、口座番号が分からずともマイナンバーだけで送金することが出来ます。その名は「プロンプトペイ」(日本語で「迅速な支払」という意味です)というタイ政府主導のサービスです。

利用者はスマートフォンで専用のアプリをダウンロードの上、国民ID番号(日本でいうマイナンバー)と自分の銀行口座を登録します。送金時はアプリを起動し、相手の国民ID番号と送金金額を入力するだけで送金が出来ます。気になる送金手数料ですが、送金金額が5,000バーツ(約16,000円)以下はなんと無料。更に送金金額が30,000バーツ(約9,600円)までは手数料が2バーツ(約6円)と相当安価なサービスとなっています。法人の場合も法人登記番号を登録してプロンプトペイの利用が可能で、こちらも従来の送金手数料より相当安価なものに抑えられています。

背後にはキャッシュレス社会を目指すタイ政府の本気度が伺えます。今年1月から開始されたプロンプトペイですが、送金実績は今年の3月迄で430万件 3,000万バーツ(約1億円)に及びます。当事務所のタイ人スタッフも「とても便利で頻繁に使っています。ただタイ人の中でもセキュリティが心配な人は全く使っていません。使う人とそうでない人ではっきりと分かれています」との事でした。



スマホのアプリで
簡単に送金可能

吉田 雄司

北海道 ASEAN 事務所（シンガポール）

ベサックデイ（Vesak Day）

5月10日はシンガポールではお釈迦様の誕生を祝う仏教の祭日“ベサックデイ”でした。日本では花まつりとして知られています。多民族国家であるシンガポールですが、シンガポール人の約33%が仏教を信仰しており、この日は各地のお寺で盛大にお祭りが開催されます。私の家の近所のお寺にも大型バスが何台も乗り付け、朝から参拝客がひっきりなしに訪れていました。

日本でも仏教を信仰している人は多くいますし、花祭りも各地で開催されていますが、日本では祝日になっていません。祝日を調べてみると日本は宗教的な理由の祝日はありません。シンガポールでは仏教だけではなくイスラム教、ヒンズー教、キリスト教の行事も祝日として国全体で祝っており、2017年は13日ある祝日のうち宗教に関連するものが6日あります。こういったことから日本と世界の宗教観の違いを感じることができます。

ちなみに今月末からはイスラム教徒の断食が始まり、来月末には断食明けの祝日があります。日本ではまだまだ馴染みの薄いイスラム文化を見られることが楽しみです。



ベサックデイの様子



お寺に横付けする大型バス

佐伯 亜耶